

平成 19 年 11 月 29 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 黒田 直樹
コード番号 1605 東証第 1 部
問い合わせ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 宮本 修平
電話番号 03-5448-0205

インドネシア共和国マハカム沖鉱区・テンガ鉱区シシ・ヌビガス田生産開始について

国際石油開発帝石ホールディングス株式会社は、今般、子会社国際石油開発株式会社が原油・天然ガスの探鉱・開発・生産事業を実施しておりますインドネシア共和国東カリマンタンマハカム沖鉱区および子会社インペックステンガ株式会社が参加権益を保有するテンガ鉱区に跨って位置しているシシ・ヌビガス田から天然ガスおよびコンデンセートの生産を開始いたしましたので、お知らせいたします。

シシ・ヌビガス田は、水深 60~90m に位置しております。同ガス田では、生産施設の建設や開発井の掘削などの開発作業が進んだことにより、今般、天然ガスおよびコンデンセートの生産開始に至りました。今後、同ガス田の天然ガスの生産は、フェーズ 1 として、2009 年前半には日量 3 億 5,000 万立方フィート程度（原油換算：約 63,000 バレル）まで拡大し、その後も更にフェーズ 2 として追加開発が行われる予定です。

マハカム沖鉱区では、当社グループ 50%、TOTAL 社 50%の権益比率にて、探鉱・開発・生産事業を行っており、現在、日量、原油・コンデンセート 70,000 バレル、天然ガス 26 億立方フィート（原油換算：約 470,000 バレル）を生産しております。マハカム沖鉱区に隣接するテンガ鉱区は、当社グループ（22.5%）、TOTAL 社（22.5%）およびインドネシア国営石油会社 Pertamina 社（55%）により参加権益が保有されております。

（シシ・ヌビガス田（シシ・ヌビユニット）への各権益保有者は、当社グループ（47.9%）、TOTAL 社（47.9%）、Pertamina 社（4.2%）。）

マハカム沖鉱区等で生産された原油・コンデンセートは、日本などに輸出されているほか、天然ガスは、LNG（液化天然ガス）の原料ガスとして、世界最大級のボンタン LNG プラントに送られ、同プラントで生産された LNG は、日本などに輸出されております。ボンタン LNG プラントは、マハカム沖鉱区を含む周辺鉱区で生産される天然ガスを原料ガスとして供給を受けており、当社グループは、ボンタン LNG プラントへの原料ガスの最大の供給者となっております。今回生産が開始されたマハカム沖鉱区・テンガ鉱区のシシ・ヌビガス田で生産される天然ガスも、ボンタン LNG プラントでの原料ガスとして利用される予定です。

当社グループは、インドネシアにおいて、上記のマハカム沖鉱区・テンガ鉱区に加えて、南ナトゥナ海 B 鉱区、北西ジャワ沖鉱区、南東スマトラ沖鉱区などで原油・天然ガスの探鉱・開発・生産事業を実施しているほか、LNG プロジェクトとして開発中のタングープロジェクトを構成するベラウ鉱区に権益を有しております。また、100%権益を保有するオペレーターとして、チモール海沖合マセラ鉱区で発見したアバディガス田の評価作業等の事業を実施しております。

以上

